

第9回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム 「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2013」発表者募集要項

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）では、聴覚障害学生支援に関する事例や情報を蓄積し、全国の大学に発信する活動を行っています。

こうした取り組みの一環として、「第9回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」では、全国の大学が日頃実践している支援の取り組みを発表し、情報交換を行うとともに、関係者の創意工夫やアイデアの斬新さを表彰するコンテスト企画を設けました。

障害学生支援室の設置や支援体制などの大学を挙げた取り組みから、支援現場で利用しているアイテムまで、関係者の工夫がキラリと光る実践事例を広く募集します。

「努力して作り上げてきた」「陰ながらこんな工夫をしている」…そんな取り組みがあれば、ぜひ教えてください。聴覚障害学生支援に関わるすべての方々からの参加をお待ちしています。

<発表日時>

2013年12月8日（日）

『第9回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム』アフタヌーンセッション内で実施

14:00～15:45 発表および投票

16:00～16:30 開票・集計作業

16:30～17:00 全体会Ⅱ内で結果発表および表彰

<応募資格>

聴覚障害学生支援に取り組んでいる団体、または個人。教職員・学生・支援者等の属性は問わない。ただし、1発表につき1名以上の発表者が必要で、発表者はシンポジウムへの参加を条件とする。

<募集内容>

聴覚障害学生支援に関する取り組み全般。ただし、現在までに実施している、または具体的な実施スケジュールが決まっている取り組みであること。

※今年度は「PR・啓発グッズ部門」は設けない。独自に作成したグッズ等を発表したい場合は、作成の目的や使い方、使用して得られた効果等をパネルにまとめ、発表すること。

募集内容の例

①障害学生支援室のさまざまな工夫

支援室の間取りや運営の工夫／支援室で行っている取り組み全般

②支援者の募集・派遣・スキルアップのために行っている取り組み

講座開催時の工夫／独自マニュアルの作成／

日頃の技術練習で行っていること／シフト表の工夫 等

③情報保障の方法に関する工夫

ノートテイクを数人で見るための方法／授業にあわせた工夫 等

④聴覚障害学生と支援学生のエンパワメントに関すること

交流を促すための企画／ニーズを引き出すための工夫／主体性を生かした取り組み 等

⑤その他

支援現場のちょっとした工夫／独自に作成し、使用している学生募集ポスター・

ノートテイクマニュアルなどオリジナルグッズの説明 等

<参加方法>

Step1 参加申込み (9月13日(金)締切)

- ・参加申込書 (ホームページより各自ダウンロード) に必要事項を記入し、PEPNet-Japan 事務局まで FAX または E メールで送付する。
- ・複数の取り組みを発表する場合は、1発表につき1枚の応募用紙を提出すること。
※応募多数の場合は、参加申込書による書類審査を行なう。
※当日の発表方法については、下記を参考に、検討の上記入すること。

- ・筆談で対応する、を選んだ場合はポスター1枚につき筆談用器具 (ブギーボード等) を1枚事務局から支給する。追加で必要な場合は各自持参すること。
- ・各自が情報保障者を用意する、を選んだ場合は発表者とは別に情報保障者を各大学で手配すること。

Step2 掲載用資料のデータ提出 (10月11日(金)締切)

- ・発表内容を規定のフォーマットに基づき、A4 サイズ (210mm×297mm) 1枚にまとめ、電子媒体 (Word または PDF 形式) で PEPNet-Japan 事務局に送付すること。
- ・送付されたデータは PEPNet-Japan 事務局にて編集し、当日資料内「発表内容紹介」として掲載し、参加者全員に配布する。
- ・データの提出が遅れた場合、当日資料への掲載は行なわないこととする。

Step3 展示用パネルの作成、送付 (11月15日(金)締切)

- ・掲載用資料と同様の内容を A1 サイズ (594mm×841mm) のポスターとして作成する。展示用ボードに直接貼り付ける、または吊り下げて掲示できるよう、パネルを作成すること。(画鋏可、吊り下げ用フックの準備有、テープでの貼り付けは不可)
- ・ポスターの印刷やパネル作成は発表者が行うこと (拡大印刷等が困難な場合には相談に応じる)。
- ・展示用パネルの他に、学生募集ポスター・ノートテイクマニュアルなどの作成物をブースに置く場合は、展示用パネルとともに送付すること。
- ・1つの発表内容につき、1枚のポスターに収めることとする。
- ・事務局が指定する宛先に送付すること。事前郵送が困難な場合は当日会場に持参すること。

Step4 コンテスト内での発表

- ・パネルは定められた時間内に会場に掲示し、終了後は事務局にて撤収することとする。
- ・発表者は自学の発表ブースに立ち、展示内容の発表を行なう。
※休憩時間は指定しない。休憩する際は、休憩中を示す立て札を机の上に置いてからブースを離れること。立て札は事務局で作成する。
- ・配布資料がある場合は、発表者が印刷等の準備を行い、当日配布すること。
- ・補足資料として5分程度の動画映像の上映も可とする。
- ・参加者全員に伝わるような発表方法やコミュニケーション手段を検討すること。
※コンテスト内では通訳を担う情報保障者を用意しないが、発表時の方法やコミュニケーション手段も審査の観点となるので留意すること。

<審査方法>

シンポジウム参加者の投票により、多くの関心を集めた取り組み数点を表彰する。投票箱は1つのパネルにつき1個用意し、アフタヌーンセッション会場に投票用ブースを設置する。

審査は、以下の観点に基づいて行う。

- グループの力を活かした取り組みであるか
- 大学の特徴や資源を上手く活かしているか
- ユニークな取り組みでオリジナリティが感じられるか
- 聴覚障害学生のニーズ（要望）を良く捉えたものか
- 発表内容の要点が分かりやすくまとまっているか
- 全ての参加者に伝わる発表方法、コミュニケーション手段を使っているか

<結果発表>

審査結果はシンポジウム全体会にて発表を行うとともに、PEPNet-Japan より表彰状等を授与する。また、応募内容や受賞団体については、PEPNet-Japan ホームページ等で広く公表する。